

お小遣い制

大阪府・帝塚山学院泉ヶ丘中学校 1年 小西 望月

「中学生になるから、お小遣い制にしない？」と母が提案してきた。

私は、自由に使えるお金がもらえるのだったら待ってましたとばかりに「いいよ!」と答え、春からお小遣い制になった。

まず、金額を決めることになり、年齢×100円で1,300円となった。そして、初めて郵便局で通帳とカードを作った。ちょっと大人になったような気がしてドキドキした。

初めての貯金ということで、おじいちゃんが1万円をカンパしてくれて、おばあちゃんは、すぐに使いにくいように2,000円札を2枚くれて、「大切に持っている価値がでるかもしれないよ。でも、大人になって明日食べるのにも困ったときに使いなさい」と言った。

2,000円札は、お守りとして手元に置いておくことにして、1万1,300円を通帳に入れた。なんだかすごくお金持ちになったような気分だ。

中学生になったら部活の帰りに友達とジュースを飲むのを楽しみにしていたので、自由に使えるお金があるのはうれしかった。

部活はバスケット部に入ろうと思っていたので、誕生日プレゼントは、バスケットボールを買ってもらった。

結局、憧れの先輩あこががいたので、テニス部に入部することにした。ラケットが必要になり当然、買ってもらえると思っていた。でも、母は「自分のものは自分で買いなさい。それに、希望通りバスケットボールは買ってもらったでしょ」と言った。

この時ほど、『しまった!』と思ったことはない。部屋に置いてあるバスケットボールを見るたび、『ラケットにすればよかった』と後悔した。

お店にラケットを見に行くと、ラケットが高くてビックリした。一番安いのがガット込みで5,000円くらいであったので、これにしようと思いお店の人に聞くと「このラケットはガットが張り替えられない使い捨てになります。部活にはお勧め

できません」と言った。

私は、『そんなあ〜』と心の中で叫んだが、安くても使い捨てなら高い買い物になる。いつも母は「安かろう悪かろうが一番損なのよ」と言っているので、高くても長く使えるものを探すことにした。店員さんにお勧めを聞くと、もう廃番はいばんが決まった3万円のラケットが1万円になっているものがあると教えてくれた。2年前の型のデザインらしいが新品だし色もキレイで何の問題もない。『これだ!』と決めた。

さらにお店の人は、「ガットはどれにしますか? 振動止めも付けた方がいいですよ。グリップも巻いた方が……」と言ってくる。『いったいいくらかかるんだろう……』私の頭の中はもうパニックで固まってしまった。結局、全部で1万3,000円の買い物となった。人生初の高額商品でまさかのマイナスだ。床ふきの仕事と引き換えに、母に頼みこんでマイナス分を払ってもらった。母がお小遣い制にしようと提案してきた訳が、だんだんわかってきた。

自分で買うとなると、本当に必要なものか、いろいろ考えるようになった。自分で買った物は、大事にしようという気持ちも強くなる。

これが大切なことで、母が私に伝えたかったことなんだと思った。

実は、この買い物の時、私はちょっと失敗した。それは、振動止めが300円だったのだけど、後で付けることができる聞き、予算オーバーしていることもあって買わないで帰った。

でも、使ってみるとやっぱり必要だとわかった。母に買いに連れて行ってと頼んだら、「電車代の方が高いでしょ。本当に必要なものは一緒に買わないと時間もお金も損するのよ」と言った。

その通りだ。ちょっとケチったら痛い目にあった。仕方がないので、ネットで同じものを探して買った。送料がかかったが、時間と交通費を考えると安くすんだ。時間をお金で買うという考え方もあるんだと勉強した。

お小遣い制になってから、いつも金欠だ。

私は、母に「お小遣い制はやめよう」と言ったがあっさり断られた。

母は笑って「夏のスペシャルあるわよ」と言った。それは、家中の窓ふきとベランダ掃除だった。へとへとになるまで働いて3,000円。

『お金を稼ぐって大変なんだなあ』と思った。3,000円の重みがわかった。有り

難いなと思った。

今では部活があるときは、水筒を2本持って行くようになった。ジュースを買っても満足感がないことに気付いたからだ。

満足する買い物をすると、お財布は寒くなっても心はあったかい。心があったかくなるようなお金の使い方、これが『活きたお金の使い方』だと思う。

